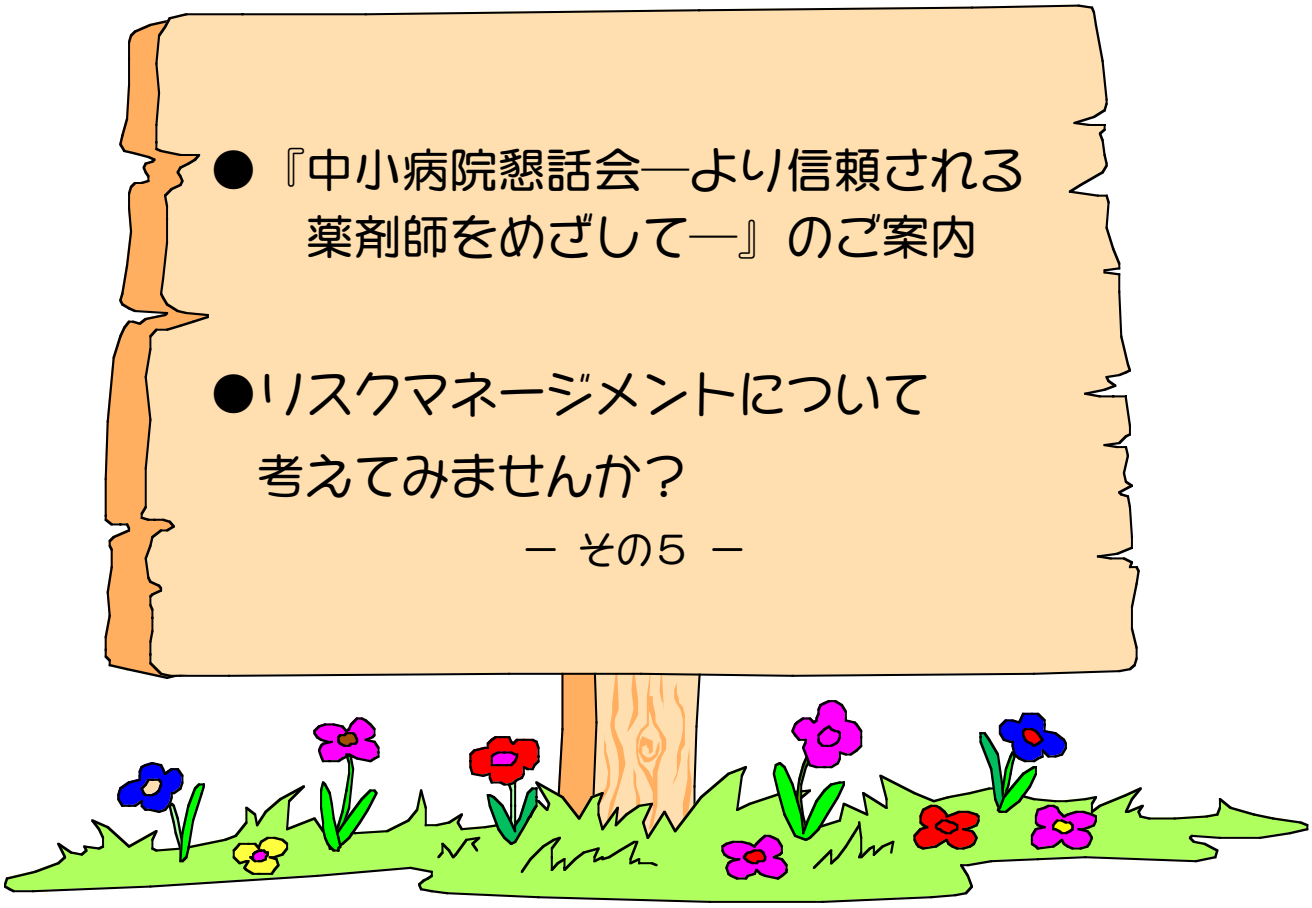
いっしょに
考えてみませんか

洞薬会（北九州地区勤務薬剤師会）
中小病院委員会からのお知らせ



Vol.8

2002年２月号

●中小病院懇話会開催のお知らせ

来る平成14年２月26日(火曜日)19時より、三菱化学病院講義室におきまして第26回『中小病院懇話会―より信頼される薬剤師をめざして―』を開催いたします。今回は、**『より信頼される薬剤師をめざして～薬剤師の未来像を考える～』**と題して、私達薬剤師のあるべき姿を、参加される皆様と一緒に語り合いたいと思います。

今年度の中小病院懇話会は、『医療の中での薬剤師の存在意義を、患者さんや医師，看護婦にアピールできることをみんなで探していきましょう』を統一テーマとして掲げ、７月には『病院にある全ての医薬品を管理する』という視点から、薬剤師が薬を管理することについて、また11月には『病院全体で取り組む医療事故防止対策には、薬剤師は必要不可欠である』という観点から、薬剤師がリスクマネージメント活動に積極的に関与することの必要性や重要性について、提案し、皆さんといっしょに考えてまいりました。

当初、２月に開催する中小病院懇話会は、講師をお招きし、信頼される薬剤師をめざす為の勉強会を開催する予定でした。しかしながら、７月及び11月に各２回，計４回の中小病院懇話会を開催する中で、中小病院委員の中に『私達が提案してきた事項は、果たして参加していただいた皆様の病院にとって適したものだったのか。業務に活かせるものだったのか』『私達は、机上の空論を述べていただけではないのか』という疑問が沸き上がってきました。

中小病院委員会が対象とする300床以下の病院は、それぞれの病院が様々な特色を持って地域の医療に貢献しています。従って、そこに勤務する薬剤師も、それぞれの病院に必要な薬剤師としての任務を要求されます。

私達は、今年度４回実施した中小病院懇話会で、私達が重要だと考え提案したことが、必ずしも最重要な問題とは限らないことを痛感させられました。

そこで、今回の中小病院懇話会では、過去４回の中小病院懇話会で私達が提案したテーマについて、皆様がどのように受け止め、どのように考えておられるのかをお聞きし、意見交換を行いたいと思います。また、皆様が実際に直面されている問題点について、参加される皆様と共にいっしょに考えたいと思っています。

今回の中小病院懇話会には、講師や発表者は存在しません。参加される皆様が、講師であり発表者です。皆様が直面している問題が、私達病院薬剤師の今後の在り方を方向づけることができるものと信じています。

私たち薬剤師の未来について、いっしょに考えてみませんか。

●リスクマネージメントについて考えてみませんか？

― その５ ―

前回は、医療におけるリスクマネージメント活動の中で、私たち薬剤師がどのように関わっていけるかについて考え、注射薬の１本渡しや混注業務の実施等、いくつかの事柄について提案しました。

その中で、私たちは、看護婦のエラーの軽減を図ると共に、看護科(部)と十分にコミュニケーションをとりながら、チームとしてミスを発見するというダブルチェック機能を確立することが、絶対に起こしてはならない患者さんに対する医療事故を、未然に防ぐ為の必要不可欠な環境であると考えました。このことは、第24回および第25回の『中小病院懇話会―より信頼される薬剤師をめざして―』においても、紹介させて頂きました。

実は、この会を開催するにあたり、市中の病院に勤務するA看護婦に、私達の考えに対しての意見を求めていました。今回は、その意見の一部を紹介したいと思います。

****

今回レポートを読ませていただき、先ず感じたことは、この様な学習会を持つこと自体がリスクマネージメントを考えるモチベーションになり、個々の意識が高まると共に、自分がどのような組織に属し、どのような立場であるかを考えなおせるきっかけにもなるのではないかと思いました。そして、学習会の中で、種々の具体的な話し合いが出来ることにより、アクシデントに至るまでに、未然に防げる事柄を見つけだせますし、具体的な対応が、ひとつでも実行に移せれば良いと思います。また、薬局だけにとどまらず、看護婦の方に目を向けて頂き、意見を求められたこともまた、意義あることではないかと思います。

今、どのセクションにおいてもリスクマネージメントについては、かなり重点が置かれていますが、それぞれのセクションだけでなく、他のセクションのことも念頭において、横の繋がりも大切だと思いました。看護婦のヒヤリ・ハット報告書を踏まえて、包括的に薬剤について考えて頂けるのはありがたいと思います。しかし、具体策の中のダブルチェックの部分ですが、いい案だとは思いますが、時として看護婦が再度見直す時に、看護婦個人の知識，性格，仕事に対する意識，多忙な事、また看護婦より

もっと薬に詳しい方が作っているのだからという甘い考えにより、見直しが意識的に行われているかというと"NO"という答えが多いのではないかと思われます。ダブルチェックをしているという事実が相手に対する依存心を芽生えさせインシデントからアクシデントに繋がる要因にもなりえると思います。ダブルチェックが駄目だと言っている訳ではありません。ダブルチェックを行うことはとても良いことですが、より安全にする為に、お互いに「私一人が作っている」や「私一人が見ている」というような意識づけをもつようなルールが必要だと思います。（要は、個人的な意識の持ち方という事にまでなるのでしょうか…。）

もうひとつ意見を言わせていただけるのなら、仲間を信頼していくという環境も大切ではありますが、相手の理解度を見極めての信頼関係の確立や、表出された事柄に対しての受け止められる力量も問う必要があると思います。

例えば、理解度の所では、薬の作用，副作用，内服であれば用法，作用時間など、看護婦がどこまで理解できているか等、密かに知っておく事も大切ではないかと思います。

また、表出された事柄というのは、例えば間違いがあって、間違えた本人にそれを告げた時に、本当に命に関わるミスであった場合は、ありがとうが誰でも素直に言えますが、小さな事であれば、「これくらいで…」という感情の残る人と「よかった、大きなミスに繋がらなくて」と思う人、また「私が？」と認めるまでに至らない人などです。

「ハインリッヒの法則」が浸透していれば、少なくとも後者の個人差の幅が埋められるのではないかと思います。　―後略―

****

私たち薬剤師は、リスクマネージメント活動のキーパーソンであると確信しています。しかし、薬剤師が単独で活動しても何も意味がありません。看護婦と上手くコミュニケーションをとり、それぞれの施設に適した形で、薬剤師の職能を十二分に発揮することが重要です。

みなさんは、この看護婦からのメッセージをどのように感じられますか？

編集：洞薬会中小病院委員会

池友会小文字病院	山崎信子	北九州市立門司病院	片山　巌
北九州市立総合療育センター	井上和啓	町立芦屋中央病院	筒井浩陽
三菱化学黒崎事業所附属病院	池田美幸	香林会香月中央病院	森友英治

本誌の内容へのご意見，ご質問は、北九州市立総合療育センター井上和啓（☎:922-5596）までお寄せ下さい。